

血管造影検査（アンギオ）

◆血管造影検査とは

肘や手首、足の付け根の血管からカテーテルという細い管を挿入し、カテーテルを通して造影剤という薬を注入し放射線（X線）で目的の血管を描出する検査です。この検査を通して行う低侵襲な血管内治療を IVR（Interventional Radiology）といいます。これらの検査や治療は、頭頸部や胸部腹部疾患、四肢疾患に広く使用されています。

◆装置の紹介

当院には2つの血管造影撮影室があります。

●心臓専用の心臓カテーテル検査室です。

当院の装置は2つのアームを所有しているバイプレーン型のため、一回の撮影で異なる2方向の画像が得られ、造影剤量を減らして検査を行うことができます。



『Infinix Celeve-i Rite Edition』

キヤノン社製

●脳血管や腹部、四肢など多目的に使用する血管撮影装置です。

一般病院ではめずらしい、血管造影装置とCT装置が同室で使用できるハイブリッドタイプの検査室です。



『Artis zee ceiling PURE ICT』

シーメンス社製

◆検査の種類

心臓カテーテル検査

カテーテルを直接心臓の血管（冠動脈）の入り口まで挿入し、造影剤を注入しながら撮影をすることで冠動脈の狭窄や心臓の動きなどを調べることができます。

また、血管の狭い部分に対し、金属製のメッシュ（ステント）を留置したり、バルーンを膨らませる治療を行います。この治療は経皮的冠動脈インターベンション（PCI）と呼ばれています。

他には心臓の筋肉（心筋）を採取して病理学的に検査する心筋生検も行っています。



血管造影検査

●腹部

代表的な腹部の検査は、肝動脈化学塞栓術(TACE)です。カテーテルを肝臓の動脈（肝動脈）に挿入し撮影を行います。肝臓の腫瘍を栄養している血管を調べ、その血管から抗がん剤と塞栓物質を注入することで、腫瘍への血流を阻止し腫瘍のみにダメージを与える治療です。

また、出血している血管に対してゼラチンや金属製コイルなどで塞栓する治療も行っています。

●頭頸部

カテーテルを脳や首の血管（頸動脈）に進め造影検査を行います。脳血管の造影検査の他に、脳動脈瘤に対するコイル塞栓術や、頸動脈の狭い部分に金属製のメッシュ（ステント）を留置する治療（CAS）などを行っています。